

【短報】石川県におけるダンダラテントウの生息状況

ダンダラテントウ *Cheilomenes sexmaculata* (Fabricius, 1781) は、体長 3.7～6.7 mm のテントウムシ科の種である(阪本, 2018)。本種は温暖化によって日本国内の分布域を北上している可能性が示唆されており、2018年12月時点における国内分布の北限は石川県白山市とされている(Kawakami *et al.*, 2014; 渡部, 2018)。石川県においては、渡部(2018)が本種の初記録を報告するとともに、今後の動向に注視する必要があることを指摘していたが、その後追加記録は報告されていない。

第2著者の天木は石川県内において複数の本種を確認しており、その状況を記録していた。石川県下における本種の越冬の可能性を示唆する貴重な記録であるため、ここに報告したい。採集者は全て天木

であり、標本は石川県ふれあい昆虫館にて保管している。

報告に先立ち、仲介の労を賜った天木哲也氏、本稿をご校閲いただいた大阪市立自然史博物館の河上康子博士に深謝申し上げる。

1 成虫, 1 幼虫(図1-3), 金沢市畝田東2丁目(ひょうたんの葉), 19.VIII.2018, 写真記録; 2 幼虫, 同所(ひょうたんの葉より採集), 12.VII.2019, 採集, 14.VII.2019, 蛹化, 17.VII.2019, 羽化; 1 幼虫, 同所, 12.VII.2019, 採集, 15.VII.2019, 蛹化, 18.VII.2019, 羽化; 1 ex., 同所, 19.VII.2019; 3 幼虫, 同所, 20.VII.2019; 1 幼虫, 同所, 27.VII.2019, 採集, 28.VII.2019, 蛹化, 31.VII.2019, 羽化; 1 蛹, 同所, 28.VII.2019; 1 ex., 金沢市駅西新町3丁目 姉妹都市公園, 9.VI.2019; 1 蛹, 同所, 23.VI.2019, 採集, 25.VI.2019, 羽化。

上記の通り、2018～19年にかけて複数の幼虫と成虫が確認された。2018年の撮影記録は成虫と幼虫各1頭のみであるが、天木はその他複数個体を確認している。姉妹都市公園においては、2019年11月9日に渡部が調査したものの本種の確認には至らなかった。引き続き今後の動向に注視する必要があるものの、2年連続の繁殖と複数地点で複数個体を確認されていることから、本種が石川県内で越冬および定着している可能性が示唆される。

なお、本記録は渡部(2018)が報告した白山市よりさらに北部に位置するため、2020年2月時点における国内分布の北限と考えられる。

引用文献

- Kawakami, Y., K. Yamazaki, & K. Ohashi, 2014. Northward expansion and climatic factors affecting the distribution limits of *Cheilomenes sexmaculata* (Coleoptera: Coccinellidae) in Japan. *Appl. Entomol. Zool.* 49: 59–66.
 阪本優介, 2018. テントウムシハンドブック. 88 pp. 株式会社文一総合出版.
 渡部晃平, 2018. 石川県におけるダンダラテントウの初記録. さやばねニューシリーズ, (32): 36.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戎3番地
 石川県ふれあい昆虫館)
 (天木瑛士 920-0344 金沢市畝田東2丁目
 113番地10)

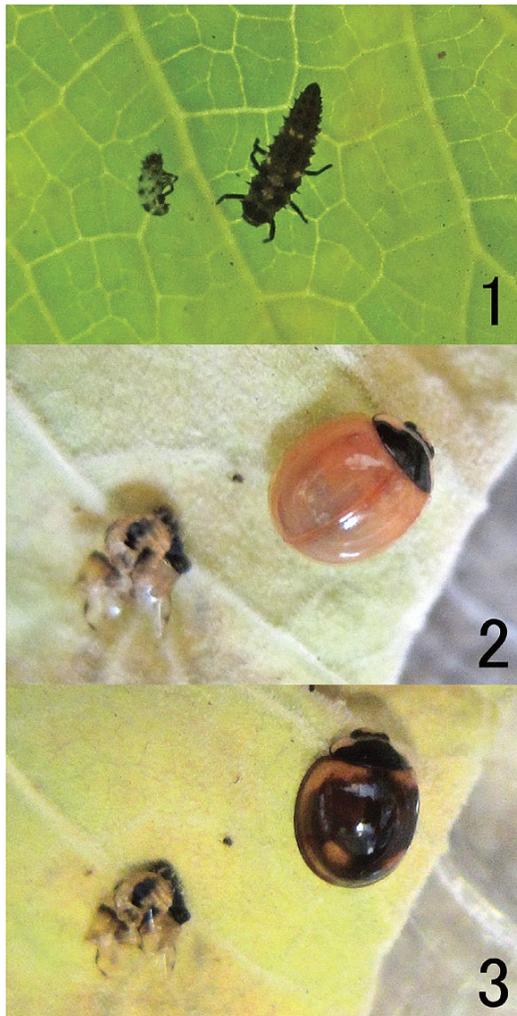


図1-3. 石川県産ダンダラテントウ. 1, 幼虫(金沢市畝田東2丁目のひょうたんの葉上にて2018年8月19日に撮影); 2-3, 図1の幼虫を飼育下で羽化させた新成虫。